

「韓国 4 大河川事業視察と交流の旅」報告

長良川市民学習会 武藤仁

「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」実行委員会主催。大沼淳一代表以下 14 名の視察・交流団。

6 月 15 日（金）

10：30 中部空港発。12：30 仁川空港着。案内でお世話になる日韓環境情報センター田中博さんと先に到着した亀井夫妻の出迎えを受けた。

空港から干潟の上を走る長い長い高架橋の高速道路でインチョン・ソンド埋め立て地、クロツラヘラサギの繁殖地に向かう。現地に着いて地元の環境団体の女性から説明を受けた。現場はがれきの孤島みたいなところが繁殖地になっていた。餌をついばむ姿も見えた。汽水域だが周りにはビル建設で都市化が進み都市排水の影響を強く受けていた。

クロツラヘラサギは絶滅危惧種で世界で 2000 羽ぐらしか生存していない。嘴から顔まで黒く、嘴が扁平なへら状からこの名がある。サギではなくトキ科。インチョンの干潟を餌場としている。冬には日本にも飛来する。藤前干潟にも 1、2 羽見ることがあるそうだ。



次にソウル市の南側を走り抜け南漢江（ナムハンガン）に向かった。南揚州市の生協店舗の屋上でバン・チュンベさんから 4 大河川事業で農地が公園化した河畔を見ながら説明を聞いた。このすぐ下流、南北ハンガンの合流点にパルダン（八堂）ダムが 1973 年完成。

2000 万人の水道水源となっている。2000 人の農民が生協と協力し有機農業を進めてきた。2009 年 4 大河川事業は、有機農業は河川を汚すという理由で土地を奪い公園化しようとした（李明博は、以前は有機農業を推進していたのに）。警官を動員して農民排除。11 軒いた農家が 4 軒となる。裁判は農民側一審勝訴、二審敗訴、最高裁判決はまだ。

川を渡って、北ハンガンと南ハンガンの合流点ツムルモリ（両水理）で、たたかう農家の一人ソ・ギョソップさん（40 歳）から話を聞いた。彼はソウルからの帰農家。ここは、韓国有機農法発祥の地で、昨年有機農法の世界大会も行われた。95 年には韓国で有機農法を促進する法律もできた。4 大河川事業が始まってから、国は有機農法は環境に悪いと攻撃してきた。





農民は、有機農法を守るためにカトリック教会と協力してたたかっている。私たちが説明を受けた大テント会場はミサの会場にもなっているようで祭壇があった。川に挟まれた農地ではビニールハウスもたくさんあり、元気に農業が進められていることが分かった。また、強制排除と戦うコンテナを利用した強固な砦・物見櫓もあった。



4大河川事業は2年間で2兆円を使う大プロジェクト。川の浚渫土はヨジョへ持っていかれ、10mもの高さに積み上げられている。4大プロジェクトが終わり、土

建企業は洪水被害があったタイへでも行くのだろうと言われている。

北ハンガンの西は南揚州で野党側、東側はヤンピオン州で与党側。野党側は、農民の側に立って与党側は非協力的ではっきりしている。

宿泊第1日目は南ハンガン川畔にあるヨジョのモーター。部屋に入るとまず靴を脱ぐ。床は、オンドル、窓は二重窓。冬は相当寒いのだろう。夕食は、ホテルの前にあるレストランで韓国料理を囲んで地元のみなさんとお互いに自己紹介。おいしいマッコリもあって盛り上がった。



6月16日（土）

朝食はホテル1階の食堂で、家庭風の料理をいただく。

マイクロバスでイポダムに向かう。**イポダム**は銀色の卵型ドームを並べた形で長良川河口堰を連想させるが、大仰でデザインに凝っている。現場で迎えてくれたのはイーハンジュンさん。活動歴14年で30代後半か。さっそくダムに架かる通路に説明グッズを広げ説明が始まった。KBS（韓国公共放送）も私たち視察団を追いかける2日にわたる同行取材に来た。



このダムは一番金を使ったダムで大統領のための施設でも50億ウォン使っている。ダム本体・管理棟どれもわざとらしいデザインに嫌味を感じる。ダムの下に丸く囲んだスペース。何なのか誰も想像できなかった。答えは？水泳をするプールだそう。うっそー！ダムからはシャワーがカーテン状に放水されている。周りにはライトアップ用のランプがいっぱい設置されている。土建屋の自己満足。デザインで遊んでいる。開発事業によって作られたサンクリングロードを利用するカラフル



4大河川事業には22兆ウォンがかけられているが、国民の7割は反対している。川には鳥もカワウソもいなくなった。事前の環境調査は1日50kmという超ハイペースで進められた。

ダム上流彼方に浚渫残土の山がふたつ見えた。土砂を30km以上移動させることは採算が合わないのでそのまま放置。



上流に向かうと遊水地が作られていた。ナムハンガンの洪水を10 cm水位を下げる計画だが、10分間でいっぱいになってしまうという。

さらに上流に向かうとヨジョダムに着く。ここもサイクリストでにぎわっていた。このダムには小水力発電所(2500kw×2)があった。ちょっと信じられない話だが、このダムのゲートは調子が悪いらしく一度も上げたことがないとのこと。このダムには



観光用に高いタワー併設されており、そこに上ると展望コーナーがあった。日本と同じように「昔の悲惨な水害の写真パネル」を展示しダムの治水効果をアピールしていた。下流彼方にはイポダムが見えた。



ヨジョダムを見た後、近くにある李朝の大王陵を訪ね、ハングル文字を開発した世宗(セジョン)の業績の話聞いた。世宗は人民の意見をよく聞いて国を治めた。

それに比べ今の大統領は独善的なやり方。この地に、ダム建設すること自体が風水の考え方からも間違っているとされている。

次に私たちは、ナムハンガンの浚渫工事のために支川の河床が大きくえぐられて土台が危なくなった橋の架け替え工事現場や河床補強工事の現場を視察した。ほぼすべての支川がこういう状態だから、今後この対策工事がどれだけ必要になるのか、大変心配になる。



ナムハンガンを遡り旧高速道路のナムハンガン橋の上で停車(ちょっと危険)。橋の上から大規模に浚渫され川の状況とサイクリングロードを整備した河川敷を見た。イーさんが用意してくれた事業前の自然豊かな写真と比較してその様相の違いに驚く。ここで、危険だったが同行のプロのカメラマンに記念写真を撮ってもらった。



浚渫されて砂洲も瀬もない川の姿ばかりを見、加えて暑さでみなさんお疲れ気味。そこで、次の上流のガンチョンダム見学はパスして、事業前の面影が残り木陰のある河川敷に案内してもらった。そこには木造りのステージがあった。すでに地元の人たちが日本の「お花見」みたいな感じでお楽しみ中だった。少しスペースを分けてもらって、私たちはそこでお菓子と飲み物を囲んでくつろいだ。地元の人たちは私たちが河川事業視察団だと知って、この川のことを熱心に語ってくれた。かつて船頭をやっていた人はここからソウルまで舟運していたことなどを話してくれた。すっかり親しくなって、おいしいスイカまでごちそうになった。お返しするものがなかったので私は英文リーフレット「SAVE THE NAGARA RIVER」と「河口堰ワッペン」をみなさんにプレゼントした。イーさんが説明を加えると、みなさん手にして喜んでくれた。



この休憩後、分水嶺を越え一路ナクトンガン流域の大邱に向かった。大邱は 300 万人の大都市。2 日目の宿泊は都心のビジネスホテル。

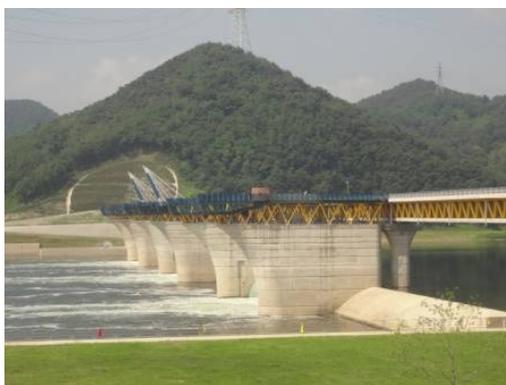
6月17日(日)

ナクトンガンは大都市大邱の近郊を流れている。この日、案内してくれるのはイーソクウーさんという青年。4 大河川事業とたたかって 3 年になるという。最初に案内してくれたナクトンガン河川敷はヒ



メジオンなどの雑草で覆われていた。かつては、ビニールハウスなど野菜畑が広がった場所だったそうで、全国の 7%を生産する重要な農地だった。この農民は正式に土地利用の許可を受けていないという理由で強制的に追い出され、現在裁判で戦っている。現場は今、雑草の中に一本サイクリングロードが作られているが、このロード、持続的に管理できるのだろうか。

次に、**ダルセオンダム**を見学した。ここも他のダム同様、周辺はイベントとスポーツ・レジャー施設が大規模に整備されている。集客の見込みはあるのだろうか。このダムは、最上流のアンドンダムから数えて 6 番目にある。ナクトンガンでは一番高いダムで 9m。かつてアンドンダムから河口まで 15 日間で水は流れ下がったが、4 大事業で 8 つもダムができたので



150~180 日かかるといわれている。これでは水質は悪くなる。事業前は砂洲があり歩いて渡れるほどの川だったが、6 mも浚渫されてしまった。ダム直下流では水流でえぐれて深さが 1.5 mにもなっている。下流側の護岸は大水で崩れて大変危険な状況になっている。右岸を見るとその跡がよくわかった。

次に、ナクトンガンの昔の姿がよくわかる支川のフウガンに案内してもらった。水源はカヤ山。支川とはいえ川幅は広い。砂洲が広がっているので水深は浅く、貝ひろいの家族らしき人たちが歩いて川を渡っていた。



運河のようになってしまったナクトンガンで、いかに莫大な土砂が浚渫されたか。想像を絶する。

フウガンとナクトンガンにはさまれた農村地帯では、玉ねぎの収穫期で忙しそうだった。ここはスイカの名産地でもある。しかし下流に建設されたハプチョンダムの影響で地下水位が上がって水びだしになりスイカは被害を受けた。この被害による減産で今年のスイカ価格は 50%上がったそうだ。

私たちは**ハプチョンダム**に向かった。ダム建設・浚渫事業者側は漁業者に 2 年間の補償をしたそうだが、砂利採取業者に対する補償については裁判で係争中。このダムは朱鷺をイメージしたデザインで橋脚塔の頭が赤く洒落ている。ダム現場に到着すると立



ち入り禁止のテープが。なんと作ったばかりの水辺公園の橋に割れた跡の穴が開いている。工事用車両が載って耐えられなかったようだ。ずさんな現場管理。私たちはそこを渡ってダムに近づいた。ダムの上にはコンクリートミキサー車が並びポンプ車のブームが下に向かって水中にコンクリート打設している？ダムは完成していないのか？周りでは水深測量作業？のボートが行き来している。理解しにくい状況の工事現場をバックにみんなで記念写真を撮った後、現場を引き上げようとする現場担当者が車でやってきて「なぜ立ち入り禁止のところへ入った！」と注意してきた（韓国語はわからないので想像）。その場をやり過ごして、パビリオンらしき立派なビルで見学していると、Kウォーター職員がやってきて先ほどの件で激しく攻撃してきた。対応するイーさんたちと、あわやつかみ合いにならんかという激しいやり取りだったが、何とか治まった。帰りにはお互いニッコリ。Kウォーター製ボトルウォーターが私たちにプレゼントされた。「驚いたかしれませんが、以前はもっとひどい態度でしたよ。」と笑って話すイーさんたち。なかなかの闘士ぶりを見せていただき、ここでイーソクウーさんとはお別れ。ありがとうございました。



ここから一路ソウルへ高速道路 45 号線を走った。マイクロバスの中で、「今後、日韓の反ダム運動の交流を深めていきましょう」と約束し合った後、ヨジュのサービスエリアでイーハンジュンさんとお別れした。

3日目の宿泊は、対岸に国会議事堂が位置するハンガン右岸側のビジネスホテル。夕食は近くのレストランでおいしい焼き肉料理をいただいた。

6月18日（月）

ツアー最後の日となった。朝食は近くのベーカリー&喫茶で、バイキング形式のパン食となった。久しぶりに辛い韓国料理から解放された感じ。パンとコーヒーをじっくり味わった。

朝食を済ませて、チョンゲチョンに向かった。マイクロバスの車窓の風景を見ながら、ソウルの「あれこれ」の説明を聞いた。バスは民営、地下鉄は市営と第三セクターで運営されている。橋の架け替え「工事中」をあちこちで見かける。市長が変わることで公共事業は、はっきりゴー、ストップが決まるようで、いい意味でも悪い意味でもメリハリのない日本の行政とは違う。

清溪川（チョンゲチョン）の河川改造事業は現大統領である李明博がソウル市長時代に成し遂げた代表的な事業である。「都市景観を台無しにした老朽高架道路の撤去をセットにしてドブ川化した都市河川を潤いある水辺空間に作り上げた」この大事業は、国際的にも名をあげ、市民にも大歓迎された。こんな話はよく耳にしていたので、今回のツアーでは是非訪問したい見学個所だった。



青瓦台（大統領官邸）を彼方の山のふもとに臨む清溪公園で下車。清溪川への放水口（滝）から見学した。大量のきれいな水に驚いた。川底にはヌルヌルした藻類も付着しておらず臭いもない。中に入りたくなるような



「清流」だった。水源はハンガンとの説明があった。興味があったので、後日某サイトを覗くと「日量 12 万トンの水が流下するよう設計されている。水源は漢江（ハンガン）の水を清溪川専用の浄水場からポンプアップして流下する 9 万 8 千トン、さらにソウル市内を走る地下鉄駅の湧水 2 万 2 千トンによってまかなわれている。」とあった。かなり電気を使っているようだ。



下流に向かって水辺を散策。どこも撮影スポットになりそうな洗練されたデザインが凝らしてある。植生もきちんと管理されて緑に包まれ、魅力ある空間となっている。「う～ん。なるほど」国民の心をつかみ、大型公共事業を推進していった李大統領の手腕の片鱗を見せつけられた気がした。

李明博は 1941 年大阪市で生まれ。終戦直後韓国に渡り朴正熙政権下、民主化闘争（学生運動）に参加。その後零細企業であった現代建設に入社。数々の国際的なプロジェクトの実績を積み重ね 36 歳で一大建設会社の社長となった。その後政界に進出し 2002 年ソウル市長に、08 年大統領に就任した。大統領選に際しハンガンとナクトンガンを結ぶ「大運河構想」を打ち出したが反対の声が大きく挫折。大統領の任期は 5 年で、今年が最後となる。大運河構想が色濃くにじむ今回の「4 大河川再生事業」は、李大統領にとっては人生の集大成として位置付けたものだろう。

清溪川の水辺小道を 500m ほど歩いてから右岸道路に上がりマイクロバスに乗った。車窓の左下は清溪川、右側は活気のある小さな商店がどこまでも続く。ちょうど名古屋の明道町でお菓子屋さんが何軒も連ねるように、次は生地店街、次はスポーツウエア店街、次は電気部品店街と延々と続く活気ある下町風景が楽しかった。河川整備工事の際には立ち退き問題などいろいろあったようだが、詳しい話はよく聞けなかった。

清溪川からハンガンに沿って下り、私たちは京仁（キョンイン）運河に向かった。桂陽駅で地元インチョンの市民運動団体のウォンチャンシクさんと待ち合わせた。そこには、COP10 会場で交流したパクさん（河川事業に反対し建設中のイポダムに柱に 41 日間座り込んだ闘士。長良川市民学習会 news10 号参照）も私たちの訪韓を知って駆けつけてきてくれた。感動の再会。

早速ウォンさんの案内で運河と関連施設を見学。京仁運河はハンガン（ソウル市）と黄海を直接結ぶもので延長 18 km、幅 80m、深さ 6.3m。現在 K ウォーターが管理している。干満の差 6 m を二つのゲートで設け調節。水を止めるため水質悪化が進む。ハンガンとナクトンガンを結ぶ運河構想とセットで 15 年前にも構想があった。外国とりわけ中国の観光客を黄海から迎え入れ釜山まで行けるようにしようという構想だった。実際、着工にたどり着いたのは 2009 年 3 月。

予算 1 兆 8000 億ウォンだったが結果は 2 兆 2500 億ウォンかかった。今年 5 月 22 日に開通したが貨物船は一切通っていない。広大なコンテナターミナルを見たが全くと言ってよいほど何もない。デザインを凝らした立派なターミナルビルに人影は見られない。広大な駐車場にも車はない。いったいこれらの施設は今後どう管理されていくのだろうか？



そして、この運河工事の「大胆」さに驚く。ルートの一部では山脈状の地形を直線に突切るため深い谷が出来ている。そこには、谷に突き出した観光空中歩道が半円形で建設されている。歩道の床には透明ガラスが敷かれ、足下はるかに運河を望めるように興を凝らしてある。



土建デザイナーの自己満足！地域の住宅団地は深い運河で地域が断絶されて困っているというのに。

私たちは、運河の両端から道中を案内してもらったがその間、就航する船は遊覧船が1隻見られただけ。人も船もない不思議な運河の風景だった。

ツアー最後の昼食は、運河の近くにある「田舎の観光地」のレストランでウォンさんパクさんと一緒にとった。マッコリ、ビールを片手にととてもおいしい料理サムゲタンをいただいた。パクさんたちとはここでお別れ。レストランの前でパクさんと貴重なツーショット！

そもそも今回のツアーは、COP10の市民ネットワークブースの中で誓い合った「今度は韓国で会いましょう！」から始まったもの。韓国各地の市民団体と交流ができ期待していた以上の感動と収穫があった。

昼食を済ませインチョン空港に。途中空港直近のスーパーで、お得な価格の土産をいっぱい買いこんで帰国の途に就いた。



このツアーでは、計画から最後まで日韓環境情報センター田中博さん(taka1119@hotmail.com)にお世話になった。事故もなく感動とカルチャーショックの連続の旅であった。ありがとうございました田中さん。

田中さんを仲人に日韓で運動交流しようという話も盛り上がった。今年の大統領選挙で情勢の大きな変化が予想される。今後さらに情報交換、運動交流が必要だと思った。